

11・7 日比谷へ!

2010年10月25日
4

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(織田陽介委員長)書記局通信

10・21の熱気引きつぎ 全力で11・7組織戦を!

1万人大結集で戦争扇動デモ吹き飛ばせ

【1】10・21国際反戦デー闘争うち抜く!

東北大学

10・21東北大学生行動は大成功しました! 昼休みの集会は法大文化連盟の斎藤委員長も駆けつけ、圧倒的な注目の中でうち抜かれました。「われわれには戦争をとめる力がある!」と熱くアピールする斎藤君に、立ち止まり聞き入る人も。ピラはけも良いです。集会の高揚を引継ぎ、元気良く学内デモ。サークル員もこちらのデモにこぶしを突き上げながら応援してくれ、非常に盛り上がるなかで貫徹しました。

4コマ授業ではクラス討論もやりました。斎藤君は人生初のクラ討でしたが、ほとんどの学生の注目を集めました。

さていよいよ夕方の集会。自治会委員長の石田君は、「1943年の10・21(学徒出陣)を繰り返しちゃいけない。大学は学生を奴隷以下に貶めながら、戦争をやる菅政権に追従している。だからこそ学生がキャンパスで戦争反対の声をあげることが重要であり、学生の団結体である学生自治会が決定的。動労千葉の決起と全世界の注目に11・7でもって応えよう!」という熱烈な基調提起を行いました。斎藤君は、



「学生は今こそ主体性を取り戻そう!」と訴え、自らの法大闘争の経験から重要な教訓を展開し、「『暴力』に勝利するためには、政治的に闘う勢力、組織が今こそ必要。これから先の生き様を決めよう。11・7は決定的な分岐点。1万人を集めて、一つの勢力として登場し戦争をとめよう!」と檄を飛ばしました。2本の提起を受けて、「本当に組織できるのか」という問題意識で熱い討論がなされました。決定的なことは、参加した全員が団結をうち固めたことです。全国学生のみなさん! 残り約2週間、11・7に向かって組織を拡大し、社会を変革する1万人を日比谷に登場させよう! (F)

京都大学



10月21日、京都大学にて「全国統一反戦行動10・21京大集会」を開催しました! まずは昼休み、本部キャンパスにて集会と学内デモ。前日には、こちらが出していた申し入れに対して当局が回答。しかし、京大教授・中西寛が参加する新安保懇に「意見する立場にはない」ということんふざけた中身。要するに京大は国家の戦争政策に無批判に追随していくということだ。集会基調ではこのことも含めて、「大学の戦争協力」を徹底弾劾し、学生は今こそ戦争反対の声を挙





げよう、と訴えました。続いて夕方からの記念講演に立つ織田委員長も発言。「田母神たち右翼排外主義から青年・学生を奪い返そう！ 田母神らの1万か、11月1万かをかけた闘い。首都を揺るがす大反戦デモに立とう！」のアピールに京大が揺れる。その勢いのままに学内をデモ。「菅政権を打倒しよう！」「学生には力がある！」。学内を席卷しつつ、総長室のある建物へ。しかしそこは鍵がかかり、職員が居並ぶ。「ここが教育を金儲けの手段に替え、戦争に加担している本部だ。学生が入れない建物なんて大学の中に入らない。松本総長体制を打倒しよう！」と弾劾し、デモを貫徹しました。

夕方からは、織田委員長による記念講演。11月集会に学生が結集すること、反戦政治闘争に立ち上がることの持っている決定的な意義が全面的に提起されました。それを受けての討論も盛況。「大学の戦争協力は絶対に許せない」「政治を変えるためには新しい組織、労働者の党が必要」という積極的な意見がどんどん出されました。

10・21を一つの集約点とした10月反戦行動の中で、「大学の戦争協力阻止」が重要な意義を持ってきた。大失業と戦争の菅政権を打倒する11月集会の決定的な内容を、今この瞬間に私たちが生み出している。その中で、新たな学生がドンドン決起を開始している。10・21の地平から、さらなる組織戦の爆発を！ 11・7への1万人結集を勝ちとろう！（A）

広島大学

10月21日国際反戦デーの日、「学生の行動が世界を変える！」と銘打って広大反戦集会を打ち抜きました！「学生、ちゅうもーく！」「なんだー！？」、昼休み、チャイムと同時に学生がスペイン広場へどんどん集まり、100人の学生でスペイン広場は埋め尽くされました。戦争反対、広島大学の戦争協力は許さないという意思を持った100人がスペイン広場に集まったということです！ 処分撤回で闘い、先日、右翼の街宣車をキャンパスからたたき出すという闘いをした法大生・



倉岡雅美さん(全学連副委員長)の発言に広大生は大注目！ 集会のあとは、浅原学長へ申し入れ行動へ学生プラザまでデモ行進！ 広大は、先日、核実験を行った米・ロスアラモス研究所と提携しており、さらには、兵器産業・三菱重工会長である佃和夫を広大の経営協議会に入れています。「広大の戦争協力を許すな！」「学生は反戦闘争に立とう！」、手を振ってくれる人やデモの様子を見に後ろを歩く学生もいたり... とデモは大、大、大注目でした！

16時半から本集会。倉岡さんは講演で「戦争をとめる闘いとは、排外主義・愛国主義からキャンパスを守り、学友を実力で守り抜く闘いだ」と訴えました。広大生からの基調提起を経て質疑・応答。集会を主催した1年生は「学生には戦争を止める力がある。確かに小さいデモだったけど、反戦の力強さを感じてくれたのではないかな。平和を願って考えているだけでなく、こうして行動で示していこう。もっと気軽に、大きな声でデモと一緒に、反戦をやりませんか！」と集会終了後間もなく、熱いアピール発しています。学生は戦争をとめることのできる存在だ！ 11・7労働者集会へ！ 戦争阻止の1万の勢力を東京に登場させよう！（K）

富山大学

10月25日(月)昼に、正門前集会と市内デモの予定

首都圏からの報告～私立S大学

S大生が、10・17首都圏学生反戦集会に参加し、11・7への結集を決めるという大勝利をかちとりました！

彼は、集会の中で、戦争の本質は何かを鋭くつかみ、「資本主義という体制のあり方が問題になっている」「資本主義同士の戦争に動員されたくはない」「自分たちは資本家や政府の道具ではない」という思いを強く持ちました。そして、国鉄全国運動パンフを読み、関西生コン支部のストや1047名闘争など「こんな闘いがあったのか！」と驚き、「こういう大きな集会なら行ってみたい」と、参加を決めました。学生の思い、怒りさえ引き出せば、11・7はどんな学生の心をつかむ力を持っているとあらためて確信しました。

さらに20日の門前展開に法大1年生が登場し、「学生は政治を取り戻そう！」と力強く訴えました。法大を軸に首都圏学生の団結が拡大し、その力が11・7への結集をガンガン生み出しています。法大闘争に勝利し、11・7で団結を取り戻し、学生運動を爆発させる突破口にしよう！（N）

【2】今こそ1万人が必要だ！全力で組織しよう

世界大恐慌が「戦争と大失業」攻撃として労働者・学生に襲いかかっている中で、いよいよ11月7日の日比谷に階級的労働運動と戦闘的學生運動潮流が1万人の規模で登場できるかどうか、歴史の分岐点になった。1万人の闘う部隊が今こそ必要だ。それは絶対にできる！一つは、11・7集会が全身から発する魅力そして求心力を語り尽くすことだ。

帝国主義戦争に対する大反戦デモを！

第一に、帝国主義侵略戦争とわれわれは非和解であるということだ。世界大恐慌が「戦争と大失業」として労働者・学生に襲いかかっている。起きていることは、古典的な帝国主義間のブロック化、通貨・為替戦争、市場・資源争奪戦だ。菅・戦争突撃内閣に11月1万人の反撃を叩きつけよう。

1) 22日からのG20財務相・中央銀行総裁会議で、米帝が通貨戦争・貿易戦争を激化させ、オバマ公約の「5年間の輸出二倍化」の貫徹で米帝ブルジョアジーが延命するための争闘戦にうって出ている。貿易黒字の圧縮を数値化させることによって、「(ガイトナー)長官の標的は、はっきりと中国の人民元に向けられた」(東京新聞)。しかし、「『通貨安戦争』と言われる状況の中で停戦を模索するが、実質的な結論に達することは困難」(ウォールストリート・ジャーナル)であり、「銃声なき通貨戦争」(東亜日報)は激しさを増して、一方で横浜APECとソウルG20に向けて争闘戦の激化となり、他方で各国のブロック化と戦争衝動を高めていく。

2) これがレーニンが喝破した「通貨戦争 ブロック化戦争 帝国主義利害の軍事的衝突(帝国主義戦争)」だ。かつての第一次世界大戦のように、第二次世界大戦のように、21世紀現代においては、基軸帝・米帝の没落の中で、米帝が自ら作り上げた世界経済の枠組みをぶち壊しながら世界を戦争に引きずり込もうとしている。日帝も死活をかけて食らいついていこうとしている。

「全体の利益にもとづいて行動する必要性が理解されな

二つは、帝国主義・資本主義の歴史的生命力が尽きてボロボロになっているからこそ絶対に打倒できるという時代認識と展望を徹底的にハッキリさせることだ。三つは、右翼排外主義の戦争扇動デモをぶっ飛ばして11月7日に首都を揺るがす大デモを実現した時に、怒れる青年労働者・学生を膨大に獲得できるということだ。以下、6点を訴えたい。

い限り、(通貨安競争の中で)複数の国が保護主義に走るのは時間の問題だ。(大恐慌時の)1930年代に起きたように、世界に壊滅的な打撃を与えるおそれがある」(イングランド銀行・キング総裁)

「他国の犠牲の上に自国だけが助かるうとする激烈なる国際通商戦が展開され、それがまた世界の政治的ならびに軍事的危機をはらんでいる」、「市場ならびに資源の独占を拡大するためにブロック化が普遍的現象となりつつある」、「したがって国際経済が急速に崩壊過程にある」(朝日新聞『国際通商戦』、1937年)

3) 帝国主義侵略戦争として徹底弾劾し、11月集会を1万人の大反戦デモとして押し出そう。帝国主義が帝国主義である限り、この矛盾は絶対に解決できない。労働者階級のストライキを先頭にした反戦決起によってのみ、動労千葉の「戦争協力拒否宣言」のような闘いを巻き起こす主体をつくることによってのみ、絶対に突破できない基本矛盾の爆発だ。であるからこそ、11月集会が決定的なのだ。

動労千葉と関西生コンの闘いに続け！

第二に、11・7集会を呼びかける動労千葉と関西地区生コン支部の魅力で圧倒的に獲得しよう。攻撃が吹き荒れているだけなのではない。法大当局が吹聴するような、弱肉強食の社会なのではまったくない。11・7こそが、世界を変革していくものすごい求心力と高さを持っているのだ。

1) 動労千葉は、戦後最大の労働組合攻撃であり新自由主義の出発点としてあった80年代分割・民営化攻撃に対してス



10月24日、動労千葉の呼びかけで11月集会実行委員会を開催(東京)。大結集で2週間決戦への突入を誓う。

右翼デモを粉碎し青年・学生の獲得を

第四に、11・7は「学生は再びの自国帝国主義の侵略戦争に加担するのか、それとも都心を席卷する1万人反戦デモを闘い菅・戦争政権を打倒するのか」をかけた歴史的な大一番だ。1万人の大デモで菅も田母神も吹き飛ばそう!

11・7反戦デモの対極で、右翼・ファシスト分子が愛国主義・排外主義むき出しの侵略戦争翼賛デモ(11月6日の田母神一派らが主催する日の丸デモ。1万人結集を呼びかけ、会場もデモコースも11・7とまったく同じ)を対抗的に設定し、青年・学生を戦争に引きずり込んでいこうとしている。

ブルジョアジー、菅政権、ファシスト、既成御用労組、大学当局を含めてあらゆる勢力が「青年・学生を絶対に11・7に結集させない」の一点で密集してきている。これそのものが、われわれの闘いと11・7の大きさを逆に証明している。

あらためて、われわれは2000万青年労働者と300万学生に問いたい。「再び戦争に協力するのか」と。この資本家のための侵略戦争で、われわれは仲間を売り渡し未来も投げ捨てるのか。本当にわれわれが団結して結合すべきは、中国において同じく反政府・反資本の大デモに決起している中国の青年労働者・学生ではないのか。敵は資本であり、新自由主義であり、青年・学生の未来を奪うものどもすべてで、国境をこえた労働者・学生の団結こそが必要だ。

連合労働運動のりこえ新たな勢力を

第五に、11・7集会は、日本の労働者・学生の頭を押さえつける連合労働運動などあらゆる既成潮流・御用労組を吹き飛ばし、労働者・学生の利害に圧倒的に立ちきった戦闘的・階級的労働運動潮流、そして革命的な労働者党をつくっていく闘いだ。その最先端に、国鉄1047名解雇撤回闘争をめぐる「4・9政治和解」との対決がある。

法大1年生決起に応え組織つくろう!

最後に、1万人結集の力で、そして11・7にのぼりつめていく過程でこそ、自らの主体的決起の中から組織をつくり出していこう。それを最もやり抜ける力と資格を持っているのが3万法大生と法大闘争だ。

11・7大結集の中でこそ組織はできる。学生が自分たち自身の力で団結を取り戻し、組織をつくり上げることこそが、学生運動と階級闘争を爆発させていく決定的な力ギとなる。その先端に文化連盟の決起と存在があり、それは学生自治会を全国キャンパスに復権させる闘いに発展する。

法大1年生グループが学内で感動的な闘いを開始し、11・7への法大生決起をつくり出そうとしている。どれだけ当局が分断を持ち込もうとも、それを上回る学生存在の大きさと誇りを彼らは示し、それは誰にでもできる闘いだ。この重要な決起に法大当局は恐怖している。支配者は絶対に労働者・学生の怒りと決起を見据えられない点で脆弱なのだ。

どうやったら闘いは爆発するのか? それは11・7集会に参加し、組織をつくることだ。残り半月を全力で闘おう!

トライキで団結を守り抜き、今なお巨大資本=JR東日本の外注化・民営化攻撃をストライキではね返し組織を拡大している。「今のような情勢だからこそ労働運動が徹底的に闘いの道を選ばなければいけないし、危機の時代だからこそ闘いの中から新たな展望を切り開くことができるはずです」、「11・7労働者集会への1万人結集は、たった一つの光であったとしても階級の主体の側に巨大な化学変化を引き起こすものとなります。それが国鉄闘争全国運動の役割であり、11月集会の持っている位置です。ここに賭けきろう」、「国鉄闘争全国運動を軸に、社会の根本的な変革に向けた力を僕らが獲得することができるかどうか、そういう大勝負が始まりました」(動労千葉・田中委員長)。

2) 11月集会には、動労千葉と関西生コンの闘いに応え、「第二第三の動労千葉」を自らの職場・キャンパスでつくり出すために日本全国から労働者・学生が結集する。それだけではなく、動労千葉が小なりといえども国家ぐるみの労働組合破壊攻撃をはね返し続けるその団結、路線、思想に獲得された世界の戦闘的労働運動潮流が大結集する。ここにこそ、浅薄な排外主義・国家主義を粉碎する、圧倒的な国際連帯とプロレタリア世界革命の展望がある。

3) 世界は革命情勢だ。11月集会はその最先端にある。

フランス年金ストでの青年・学生・高校生の活性化。

法大生は日比谷1万人結集の先頭に!

第三に、3万法大生こそが11・7に結集してほしい。法大生が戦争に反対し、政治と未来を取り戻すために行動を開始したとき、この新自由主義大学のもとで怒る300万学生に絶対に火をつけることができる。学祭規制、社研排除、そして繰り返される処分と学生監視体制。いったい何が起きているのか? われわれの目の前でまさに「戦争に反対できない」「戦争に反対させない」、かつてと同じ光景が始まっているのではないか。

法大当局は、法大生を徹底的に分断して新自由主義の餌食にし、学費を巻き上げていく対象のみならず、侵略戦争の先兵に仕立て上げようとしているのではないか。「改憲に反対しない」、「法大生は政治のことは分からない」、「自衛隊に入ろう」、すべて法大当局と御用学生団体の言葉だ。このキャンパスから法大生が反戦行動に立ち上がったときに、政治を取り戻して団結を奪い返した学生の可能性を全国の学生に対して示すことができる。法大闘争は政府・権力・資本・当局と真っ向から対決し、一歩もひくことなく、学生が本気で時代に立ち向かったときにものすごい力を発揮するし負けないということを示してきた。今こそそれを3万法大生の団結によって一つの力としよう。1年生に「活動をやめろ」と恫喝した宮崎・学生センター長は、公務員首切りを進める自治労のお抱え学者だ。この宮崎は、「学祭実を批判するのは邪魔者」と言い放った。これが権力者の労働者観・学生観だ。一切の批判を封殺し、資本家の利益を貫こうとしている。宮崎と法大当局こそが菅・民主党政権の先兵だ。10・29法大包围デモの爆発から11・7へののぼりつめよう。